
○国際交流員のコラム○

●日韓交流の場「噂の本屋」●

鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）

2021年、日韓両国の交流を活性化させるため、韓国の全羅北道と外交部(日本で言う外務省のこと)が主催となり、「噂の本屋」という事業を行います。このタイトルを見て、一体どういう意味だと思っ方が多いかもしれません。

「噂の本屋」は、日韓両国の本のタイトルを事業名とする、日韓交流の場のことを言います。その事業の内容は、「声の形(日韓共同オンライン音楽会)」、「最も特別な料理話(食の交流)」、「我が町の芸術家ふたり(伝統工芸体験)」、「君の名は(SNS写真コンテスト)」となります。

9月30日は、「我が町の芸術家ふたり(伝統工芸体験)」が全羅北道国際交流センターで開催され、日韓各地から約60名の参加者がZoomを使ってオンライン講座に参加しました。対象は、地方公務員や国際交流に携わる各機関の職員等となり、私も鹿児島県国際交流協会の一員として参加しました。

この日は、「芋のコースター」を作りましたが、ここで言う「芋」は、夏用の韓服(韓国の伝統衣装)に用いられる「モシ(모시)」という生地のことです。

モシは、トンボの羽衣とも呼ばれ、中が透けて見えるほどの薄い生地です。風通しがよく、そして、汗を吸収して熱をためない機能を持ったことから、高級織物と知られています。このような理由で、古来より国王への献上品としても用いられてきました。

約1時間の工作が終わり、講座の後半には、各自治体がどのような国際交流を展開しているのかについて話し合いました。

相互の往来が難しい状況の中でも、オンラインを通じて日韓交流を図ることにとても感心しました。

今回、地域レベルでの草の根の国際化に寄与している、各地の方々から多くを学ぶことができ、有意義な時間でした。また機会があればと思います！